

一般質問

Q ゆつたりかん周辺、旧花田家番屋周辺の再開発と他の事業とのバランスは



山内 裕

- 一、地域担当職員を配置して1年が過ぎた。活動状況や結果、今後の取り組みを伺いたい。
- 二、高齢者日常サポート事業を始めて半年が過ぎた。実施状況と結果、今後の取り組みを伺う。
- 三、町政執行方針において、ゆつたりかん周辺と旧花田家番屋周辺の再開発を5年間の重要施策としているが、いずれも観光施設であり、他の事業とのバランスをどう考えているか。

A 再開発は年次計画的に進めたい

町長 関 次雄

- 一、地域の様々な課題や情報を把握するため、町内を7地区に分けて担当職員を配置し、町内会のごみ箱の設置、中央公園の日よけ対策、地区集会所の修繕などスピード感を持って対応した。新年度は町内会において災害避難路確保に向けた必要資材の相談に応じるなど、地域と役所の橋渡し機能の充実に図りたい。
- 二、町役場など3箇所にて軽自動車を配置し、老人クラブの例会、通院、買い物等で33人が利用した。新年度は利用内容や利用年齢制限よりも、より使い勝手の良い運行形態にしたい。
- 三、再開発は重要施策であるが、他の大型事業や総合的な振興策の実施は財政に負担のかからないよう過疎計画に基づいて財源的に有利な方法で進めたい。25年度導入予定の一括交付金制度は町の大型事業を進めるうえで効果的であると考えている。

Q 過疎集落機能低下にどう対応するのか



東海林 孝一郎

- 一、昨今、少子高齢化によって集落機能の低下が著しく、空き家・耕作地の放棄が増加し、市街地と集落を結ぶ交通手段の確保も難しくなっている地域がある。過疎集落の現状にどう対応するのか。

A 基幹産業の活性化が重要

町長 関 次雄

- 一、基幹産業である農業の活性化なくして町づくりは成り立たない。国の新規施策である「人・農地プラン」の取り組みは大きな意義があるため、産業団体としっかり連携し、町に合った将来農業を真剣に考えたい。
空き家対策は、他の自治体の事例を参考としながら、解消に向けた対策を行いたい。